



写真：制御情報工学科 5年 増田知絵美「栗林公園の梅」



- 1 図書館長挨拶**
 「ひそかに読書が好きと思っているあなたへ」
 読間キャンパス図書館長 松下浩明
- 2 教員によるエッセイ**
 「読書しておく」
 「英語の本を楽しく読んでみましょう！」
 一般教育科 遠藤友樹
 一般教育科 藤井数馬
- 3 卒業生・修了生から**
 「図書室じゃない。図書館」
 「私と図書館」
 「落し文」
 「私と図書館」
 建設環境工学科卒業生 木村健人
 電子制御工学科卒業生 青木 翔
 建設工学専攻修了生 森澤海里
 電子通信システム工学専攻修了生 春日善光
- 4 図書館貸出冊数** 〈平成 22 年 4 月～平成 23 年 2 月〉
- 5 学生・教員による推薦図書** 全 18 編 〈教員 11 編、学生 7 編〉
- 6 下半期ランキング** 〈図書、CD、DVD〉
- 7 図書館からのお知らせ**

ひそかに読書が好きと 思っているあなたへ

詫間キャンパス図書館長

松下 浩明



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。香川高専によるこそ。新しい希望と意欲に満ち溢れていると想像いたします。図書館を代表して、お祝いのことばを送ります。

在校生のみなさん、新たな学期が始まりました。意気高らかに勉学に励みましょう。

香川高専では、高松、詫間それぞれのキャンパスに図書館が設置されていて、合計約9万冊（閉架図書も含めると約20万冊）の蔵書を有しています。文学、心理学、社会学などの教養を高める書籍から、実験レポートなどで参考とする専門の書籍まで、多様な領域の本がそろっています。

図書館の利用方法はさまざまです。みなさんは今までどのように図書館を利用してきましたか。

多くの方は図書館を勉学のために利用していると

思います。図書館は静かですし、冷暖房がほどよくきいています。広い机の前で、放課後のひととき、レポートや宿題をやってみましょう。授業で先生から、「この本は大事だから、読んでいてください」といわれた図書は極力購入して、みなさんがすぐ利用できるよう、体制を整えています。図書館にいれば、レポートや宿題で必要となる参考図書は大方そろっていると思って間違いないでしょう。

英語が得意ではないのだけれど、今年こそ英語をマスターしてみようとひそかに誓ったあなたは、英語多読コーナーへ立ち寄ってみるのもひとつの手です。図書館にある書籍は、図書館に歴史がある分、古い本が多いなあと感じる向きもあるかもしれませんが、英語多読のような用途には十分満足のいく本があります。

図書館のもう一つの利用方法は「たのしむ」、「やすらぐ」ということです。図書館には、最近注目を浴びた小説も購入されています。また、自分が読みたいと思っていた現代小説の作家の著書がそろっています。勉強に疲れたという方、すこし一人でボーとしていたいという方も、図書館にいらっしゃいませ。

図書館はさまざまに利用することができます。どのように、利用するかはあなた次第です。自分流の図書館利用法を見出し、おおいに勉強、研究に励もうではありませんか。

教員によるエッセイ

読書しておく

一般教育科(物理) 遠藤 友樹



まだポスドク研究員だった頃、研究所にサントペテルブルグ大学の教授が来訪し、セミナー後の昼食の帰り道、唐突に「村上春樹についてどう思う？」と聞かれた。答えに窮する私は「ノルウェイの森しか読んだことがない」とだけ答えた。教授は「もっと他のも読んだ方が良い。彼の作品はいろいろ考えさせられる。」因みに教授はロシア人である。

ショックを受けた。日本人でありながら、日本人作家の本をもっと読んだ方が良いとアドバイスされたのだ。

以前、「国家の品格」という本がベストセラーとなったのを記憶にある人も多いだろう。その中に、

欧米の知識人は日本人に会った時、日本のことについて尋ね、「教養を試す」という記述がある。「ああ、これか。」まだ若かった自分は衝撃を受けた。教授はさぞかし「つまらない若造だな」と思ったに違いない。

教養というのは、学歴のことではない。その人間がどんなことに興味をもち、どんな経験や読書をし、どんなことを考えたか、そして今何をしているか。「物理の勉強はしてきたのだろうが、教養は無いな」そう思われたかもしれない。

理論物理学の洋書では、章の冒頭に小説や歌劇の台詞などの一文を良く載せている。しかも関係無いものではなく、物理現象を抽象的に表わしているかのような一文だ。見かける度に教養の高さを思い知らされる。

教養を身に付けるには、基礎として経験や知識が必要だ。しかし学校に行けば身につくかという、

答えは否である。ではどうしたら身につくか。正解があれば私も知りたいが、読書は1つの手段であろう。人は積める経験に限りがある。読書は自分の知らない世界を教えてくれる。そして学生時代は読書をする時間がある。学生諸君も社会人になると分かるが、読書が出来る時間は激減する。学生時代にできるだけ多くの本を読んでおいた方が良い。

以前から読んでいたが、先の事があって以来、漢文や古典などを良く読む様になった。海外の人は

日本のことに興味があるし、日本人の根幹はそこにあるからだ。しかし本物は難し過ぎて読めない。私の様な初心者には角川の「ビギナーズ・クラシックス」がお薦めである。大学院生の時、藤原定家の「明月記」(900年前)に、東の空に星が現れたという記述があり、これは現在のカニ星雲の超新星爆発であることを知った。このことを国際学会で話して見たところ、好評を博した。今まだ自分は教養を身に付けている最中である。

英語の本を楽しく読んでみましょう！

日本の公立中学・高等学校の英語授業時間は約1,000時間、大学まで合わせても約1,120時間とされています。これらを、1日の時間である24で割ってみると、

$1,000 \text{ (時間)} \div 24 \text{ (時間)} = \text{約} 41.7 \text{ (日分)}$ 【1年で6.9日分程度】

$1,120 \text{ (時間)} \div 24 \text{ (時間)} = \text{約} 46.7 \text{ (日分)}$ 【1年で4.7日分程度】となります。

高専の5年間で英語力を高めたいと思うならば、やはり授業時間だけでは圧倒的に英語のインプット不足です。授業以外で英語にふれる機会をもっと増やすために、お薦めするのが、英語の本を楽しく読むことです。これは、「SSS (Start with Simple Stories) 式多読法」と呼ばれる英語学習法の1つです。

SSS式多読では、①辞書は使わない、②分からないところはとばす、③つまらなければその本をやめて別の本を読むという3原則があります。今までの学習法と違って驚いたことでしょう。しかし、これはすでに皆さんは日本語の読書でしていることなのです。辞書を使うと、どうしても話の流れが切れ、話の世界に入り込む楽しみがなくなってしまいます。分からないところでいつまでも止まっても、やはり楽しくは読めません。つまり、英語の本を楽しく読むためには、「易しい英語から入る」(Start with Simple Stories) のがいいということです。易しい本を大量に読みながら、英語の語感や実力を養い、英語を英語として捉える(日本語に訳さない)習慣を身につけながら、徐々にゆっくりと難しい本に向かいましょう。

詫間キャンパスの図書館では、英語圏の子ども向けの絵本(Leveled Readers: LR)と、大人の英語学習者向けの本(Graded Readers: GR)を中心に平成22年度に約600冊導入しました。それぞれの本

一般教育科(英語) 藤井 数馬



の表紙には、その本の語数、YL(読みやすさレベル)、シリーズ名を書いたシールが貼ってあります。YLとは、最も易しい0.0～最も難しい9.9までのスケールでその本の難易度を表しています。これらを参考にして、ぜひ手にとって色々な本を見てみて下さい。そして気に入った本が見つかれば実際に読んでみましょう。最初はYL0.5以下あたりから入るといいでしょう。つまらなければ他の本を読んでみましょう。読み終わったら、「読書記録用紙」(図書館の多読図書付近に設置しています)に、記録を残し、読破した総語数もメモしていくといいでしょう。

高松キャンパスでは、1年生と4年生の英語の授業で、約800冊のGRやLRを揃えた教室にて多読授業を行っています。そして、これまでの多読授業で学生に評判の良かった本を厳選して、図書館に200冊余り開架してもらっています。中には、『こころ』や『高瀬舟』など日本文学の英語版や、映画「ジュマンジ」の原作絵本もあります。来年度は図書館の多読図書・洋書がさらに充実する予定です。

高専の中では豊田高専(愛知県)が多読のトップランナーです。図書館には約15,000冊の多読図書を揃え、TOEIC等の外部試験でもその成果は顕著に出ています。ただ、その研究結果によれば、年間数万語程度の読書量では目に見える力はずきにくいことも実証的に分かっています。やはり、できれば年間30万語以上は読みたいところです。そのためには、継続して読み続ける必要があります。だからこそ、「楽しく」読むのが大切なのです。そうでなければ続かなくなってしまいます。「楽しい→また読みたい→英語学習の継続→英語の力がつく→もっと楽しい」というサイクルを意識して作るように読んでみましょう。

卒業生・修了生から

図書室じゃない。図書館。

建設環境工学科卒業生
木村 健人



みなさん、図書館には行っていますか？

冷暖房が完備されているから避暑地として、また冷えた体を温める場所として。いやいやたまには心も温めて帰ってください。いろいろな本が待っていますよ。読書？なんか難しそうだな。と思う人もたくさんいると思いますがそうでもありません。最近の本はおもしろいです。ユニークな題名がついているおもしろそうな表紙。つい手にとってしまう。中を開

いてみると行間のたくさん開いた文字の少ない本。そんな物も少なくありません。少し前にあの水嶋ヒロが書いて有名になった「KAGEROU」もありますよ。というのもこの本ほくも読んでみました。なかなかいいですね。あのありきたりじゃない結末。薄い本で読みやすいのでおすすめです。

本以外もありますよ。CDとか。TSUTAYA〇で借りるほどではないけどちょっと聴いてみたいなんてものはぜひここで借りてみてはいかかでしょうか。意外にいいものがそろっています。あとは雑誌とか。本屋さんで立ち読みするのは疲れるのでぜひここでゆっくり座って読んでください。

以上、あまり図書館に行ったことがない人に送る、あまり図書館に行ったことがなかった人からのメッセージでした。

私と図書館

電子制御工学科卒業生
青木 翔



長い学生生活の中で、図書館、図書室はかなり頻繁に利用してきました。保育所時代は定期的によく来る移動図書館を、小学校、中学校時代は市立の図書館と学校の図書館を利用してきました。

「のろまなローラー」、かこさとしの絵本から始まり、子供向けのビデオ、わかったさんシリーズやズッコケ3人組等の児童小説…一番の転機は小学校の時に手にした「アルセーヌ・ルパン全集 813の謎」だと思いま

す。2段構成、小さく、難解な漢字の羅列と当時としてはあまりにも荷が重く、とても読めるシロモノではありませんでした。が、それでもなんとか読み通し、「これが読めるならもう怖いものはない」と児童小説から離れ、ハードカバーの分厚い小説も苦に感じずに読み進めることができました。それでも中学校時代は新書サイズの推理小説がメインで、いよいよ本格的に読み出したのは高専に入ってからでしたが。

本選びはかなり適当に、題名や表紙で決めることもよくありました。もちろん、あまり面白く感じなかった本もありましたが、ひょっと偶然引き込まれるような本に巡り合うと周りが見えなくなるほど熱中してしまいます。恩田陸、瀬名秀明、森博嗣、宮部みゆきの本は個人的にオススメです。本が苦手という人は肩の力を抜き、楽しく読めそうな本を1冊借りて、自分のペースで読んでみて下さい。

落とし文

建設工学専攻修了生
森澤 海里



高専での7年間、図書館は僕にとって身近な場所でした。本科で図書委員、専攻科でアルバイトをさせてもらったからです。高専に入学するまで本はあまり読んだことがありませんでした。が、勉強が進むにつれて専門書を求めて必然的に図書館に通うようになり、そのうち小説やCDを借りるようになりました。図書委員としてはブックハンティングにも参加するようになり、本を選ぶ責任感を持たされ、少し大人になった

ような気がして戸惑いながらもうれしい気持ちを味わうことができました。

高専に入って、なんか違う、虚しい、行き場がないと感じている人はとりあえず図書館に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。楽園とまでは言いませんが、まったりした居心地のいい場所だったりするかもしれません。ブックハンティングやリクエストで日々充実していく本やCD、DVDたちの中から友のように、気の合う作家やアーティストに出会えるかもしれません。そして、その出会いが、人生を変えることになるかもしれません。たとえば、文系への進路変更とか…。ちなみに、僕は伊坂幸太郎が好きで進学先の決定に実はかなりの部分影響を受けているかもです。

大事なこと。図書館は飲食禁止です。ダメなものはダメです。注意されて逆ギレしているそこの君。